

盛岡山車

盛岡市と花蓮市の交流の発端は、盛岡秋まつりでおなじみの盛岡山車です。記念碑には、友好都市提携の際に花蓮市に派遣した山車があしらわれています。

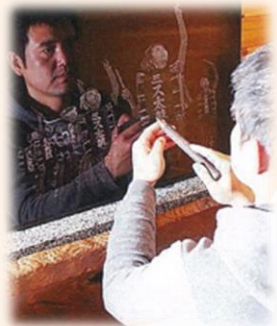


花蓮市を
練り歩く盛岡山車

南部点刻

記念碑の様子は文字を除きすべて、南部点刻と呼ばれる、石に直接ノミで点を打ち込む強弱で模様を掘る日本で唯一の技術が使われています。

機械を使った転写ではなく、手作業ゆえのコントラストと温かみがあり、記念碑にかけの友好の思いを表現しています。



南部点刻作業の様子

デザイン

全体的な形状は、盛岡から望む岩手山と、市内を流れる川を表すとともに、一目で花蓮市の場所がわかるようになっています。

両市の文化を取り入れたデザインとし、裏面には日本語と中国語による碑の説明を彫り込んでいます。

また、台座部分には、令和元年11月24日に友好交流協定を締結した際の盟約書を記しています。

台湾の民族

台湾には現在も、多くの民族が伝統と文化を継承しながら暮らしています。

記念碑には、花蓮市を代表する三つの民族である、アミ族、サキザヤ族、タロコ族を象徴する模様をあしらいました。



アミ族



タロコ族

〈表〉



〈裏〉



揮毫

記念碑に彫られる題字を揮毫したのは、盛岡市在住の書家で、数々の受賞歴を持つ伊藤康子氏です。隷書の筆法・逆筆を使い、両市民が共通して持つ温かい人柄などを表現し、印象深い文字に仕上げられています。



2020年映画「HOKUSAI」ロゴ



伊藤康子氏作品

2012年新渡戸稲造・生誕150周年
記念講演「武士道なう。」ロゴ

記念碑の素材

両市の友好を表現するにあたり、使用する石材を工夫しています。

台湾を表す赤い御影石の中に、大理石を用いて花蓮県を表現し、台湾産の緑蛇紋石で花蓮市を表現しています。また、それを支える土台には、盛岡産の姫神小桜石を使用しています。

雄大な岩手山と 市内を流れる川



緑蛇紋石



姫神小桜石

盛岡市と花蓮市の交流の歩み

- 2000年 台北国際旅行博に盛岡山車初出展
台湾観光協会 王振銘氏より花蓮豊年祭との交流を打診される
- 2001年 王振銘氏盛岡秋まつり視察
- 2002年 盛岡山車を花蓮県に派遣し、「花蓮觀光の日」パレードに参加
- 2004年 花蓮県長が初来盛しさんさ踊りに参加
- 2007年 盛岡山車を花蓮県へ二度目の派遣
- 2016年 盛岡山車を花蓮県へ三度目の派遣
- 2018年 台湾花蓮県沖地震に際し、御見舞文書送付、盛岡市議会から義援金送付
- 2019年 1月に盛岡市長ら花蓮市訪問
6月、9月に花蓮市長ら盛岡市訪問
11月、四度目の盛岡山車派遣とともに、花蓮市にて友好交流協定を締結。
- 2020年 花蓮市より新型コロナウイルス感染症対策用品の寄附
花蓮市に友好都市提携記念碑が建立され、盛岡市はオンラインにより式典に参加

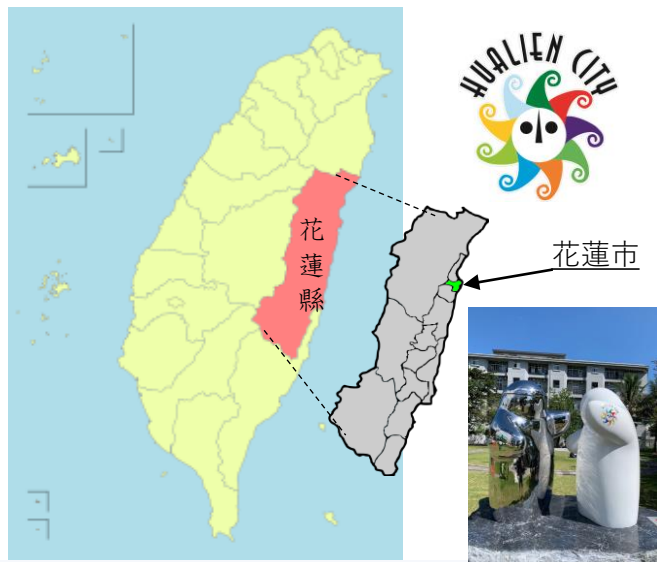
盟約書

これまで2002年の盛岡山車派遣・パレード参加を発端に継続した交流が深まっている岩手県盛岡市と花蓮縣花蓮市は、観光、産業、文化などの幅広い分野における交流が促進されることにより、住民相互の理解と友情が一層深められ、永続的な友好が図られることを確信して、ここに友好交流協定を締結することを盟約する。

2019年11月24日

盛岡市長 谷藤 裕明
花蓮市長 魏 嘉賢
立会人 花蓮縣長 徐 榛蔚

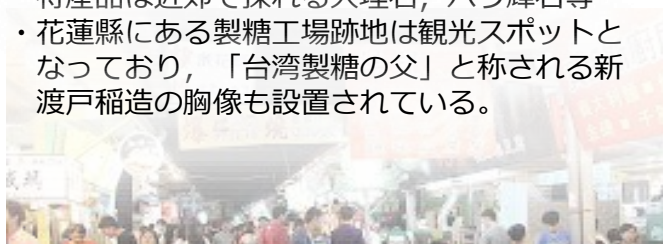
花蓮市 (Hualien City)



面積：29.4095km²
人口：106,393人

花蓮市に建立された記念碑

- ・花蓮縣の県庁所在地として行政の中心地
- ・真冬でも最低気温は15～16度と温暖で「台湾で一番太陽に照らされるまち」と言われる。
- ・周辺は太魯閣渓谷をはじめとする観光スポットが多く花蓮縣全体を通して豊かな自然に恵まれている。
- ・アミ族をはじめとする先住民文化を残している。
- ・特産品は近郊で採れる大理石、バラ輝石等
- ・花蓮縣にある製糖工場跡地は観光スポットとなっており、「台湾製糖の父」と称される新渡戸稻造の胸像も設置されている。



盛岡市・花蓮市



友好都市提携記念碑除幕式



次第

- 1 開会
- 2 あいさつ・祝辞
- 3 盛岡山車推進会による音頭上げ
- 4 除幕
- 5 記念撮影
- 6 記念碑説明
- 7 閉会

日にち：令和3年11月22日（月）
場所：盛岡城跡公園 川と緑と花の広場